

西宮市事業系一般廃棄物研修会
「マンガで学ぶ事業系ごみ問題」

京エコロジーセンター
高月 紘

ごみ処理の歴史

- 江戸時代～明治初期
ごみは河川か窪地へ
- 明治初期
伝染病がたびたび大流行
「汚物掃除法」の制定(1900)
「汚物を一定の場所に運搬し、塵芥はこれをなるべく焼却すべし」
- 明治～昭和
「清掃法」(1954) ごみ処理は市町村の責務
「廃棄物処理法」(1970) 廃棄物の急増
基本は「生活環境を清潔に公衆衛生の向上」



廃棄物問題の過去

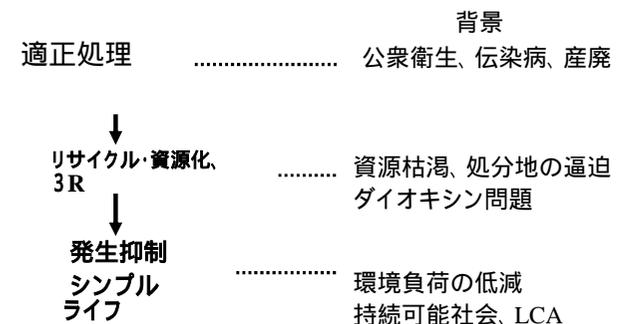
1954 汚物掃除法 → 清掃法
都市清掃

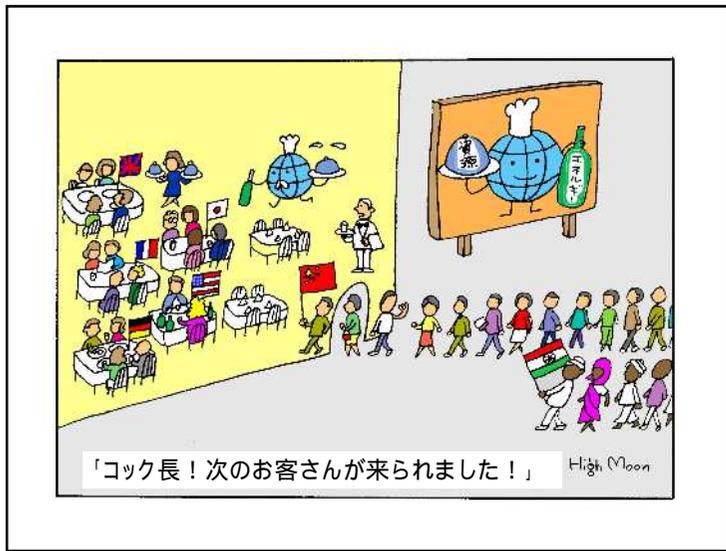
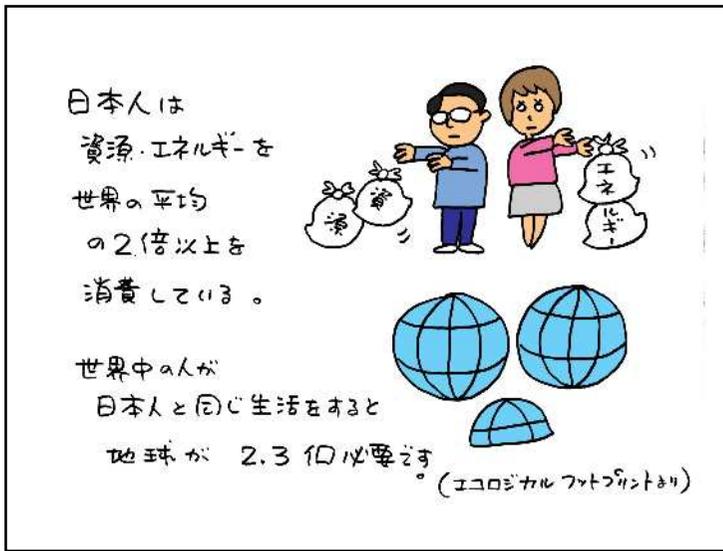
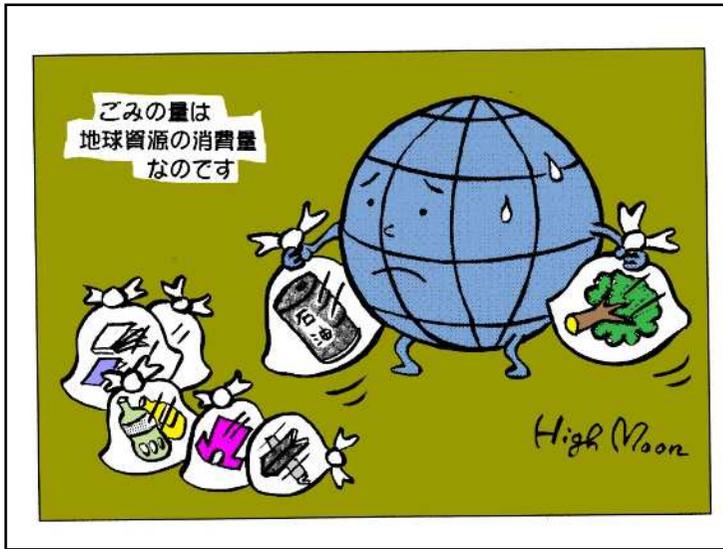
1965～ 産業廃棄物の実態調査
工場廃棄物: 集じんカス、水処理汚泥

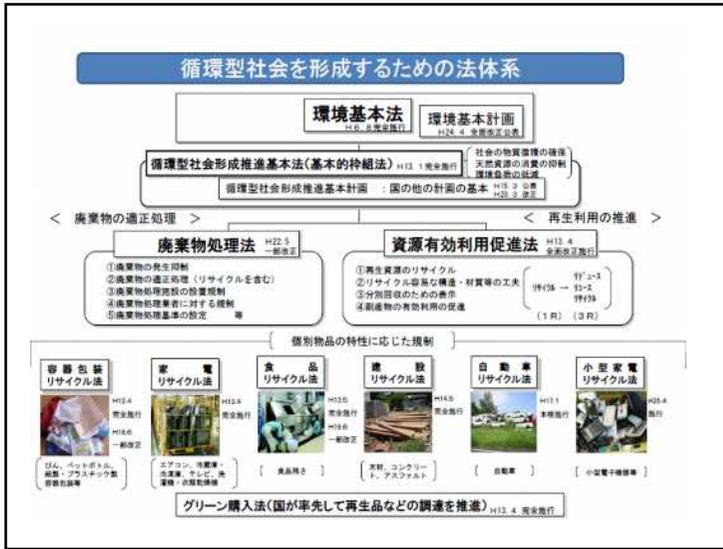
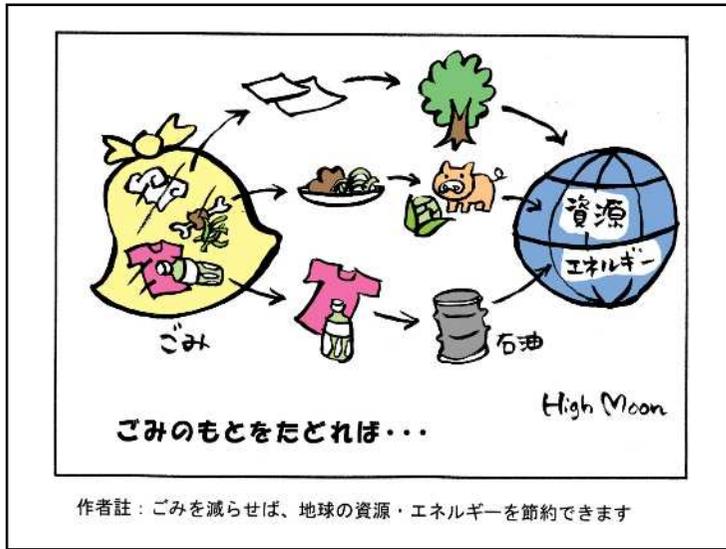
1970 清掃法の改正 → 廃棄物処理法
公害国会、産業廃棄物の排出者責任、適正処理

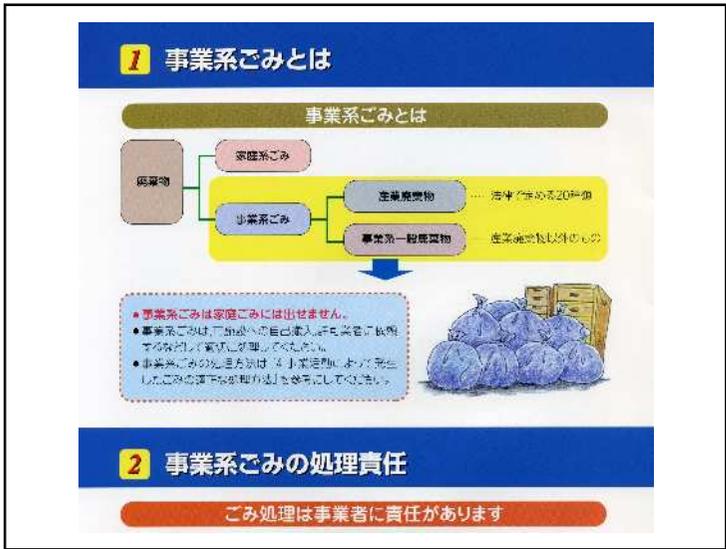
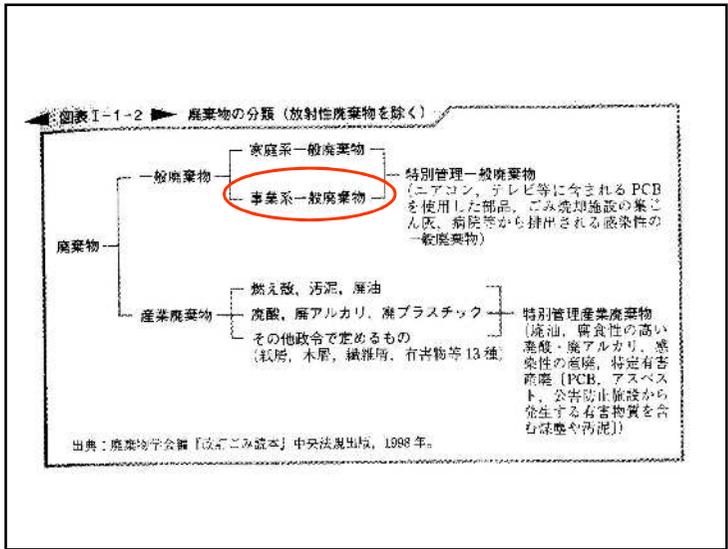
1977 廃棄物処理法の改正、資源化の視点
焼却処理の高度化

廃棄物対策の流れ



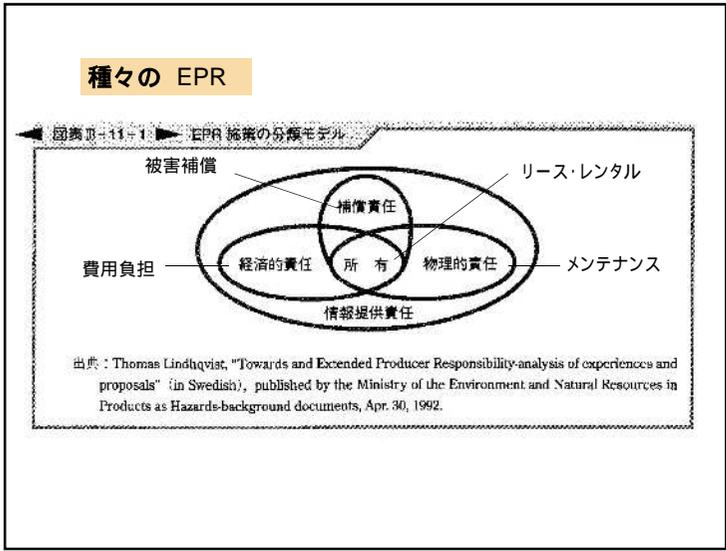






事業者責任 その1

- PPP (Polluter Pays Principle) 汚染者負担原則
公害問題: 大気汚染、水質汚濁への対応
産業廃棄物の処理責任
- EPR (Extended Producer Responsibility)
拡大生産者責任
消費者が製品の使用を終え排出後の回収・リサイクル・最終処分をその製品の生産者に対して負わせることで、減量やリサイクルを考慮した製品設計やシステムづくりへの動機付けをはかる考え方。
容器包装リサイクル法、家電リサイクル法、自動車リサイクル法などの根拠的概念



事業者責任 その2

- CSR (Cooperate Social Responsibility)
企業の社会的責任

種々のスキャンダルで企業の倫理が問われる時代
法令遵守、自主的な取り組み: ISO, KESなど環境管理
廃棄物の減量、省エネルギー

- 事業系ごみの排出事業者の責任

商店、オフィス、工場、大学などは環境負荷の低減、すなわち、ごみの減量(省資源)、省エネルギー(CO2削減)の責任あり

事業者は
廃棄物減量計画書
マニフェスト
環境報告書
廃棄物管理責任者



作者註：環境保全の主役は市民と事業者です

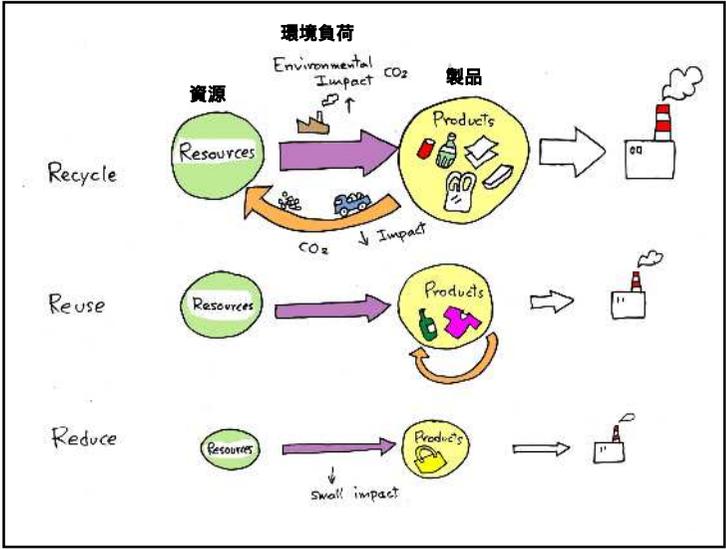
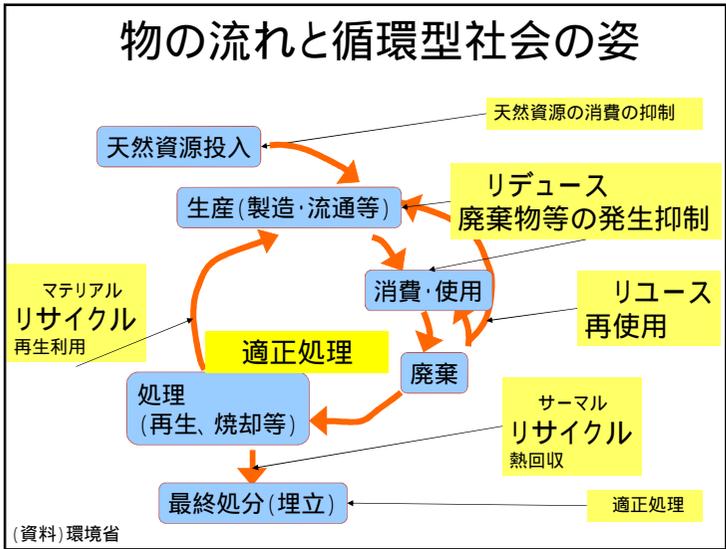
祇園祭でのごみ減量

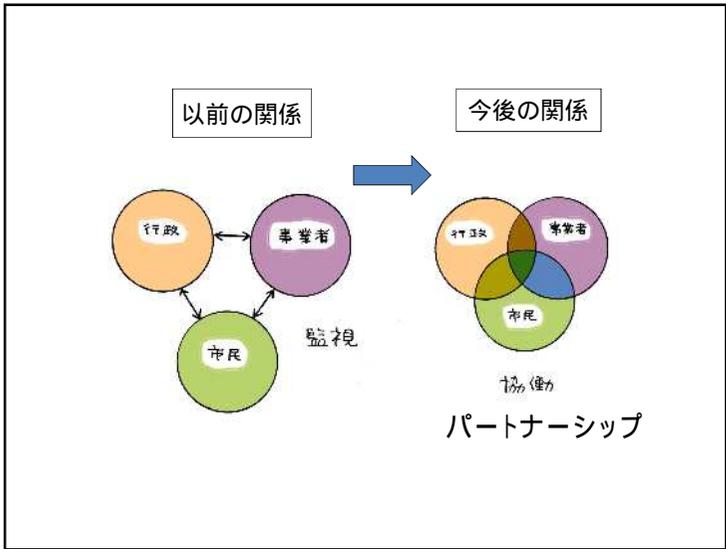
- 屋台事業者、一般廃棄物収集業者が協力して、リユース食器を活用したごみ減量作戦



会場の様子





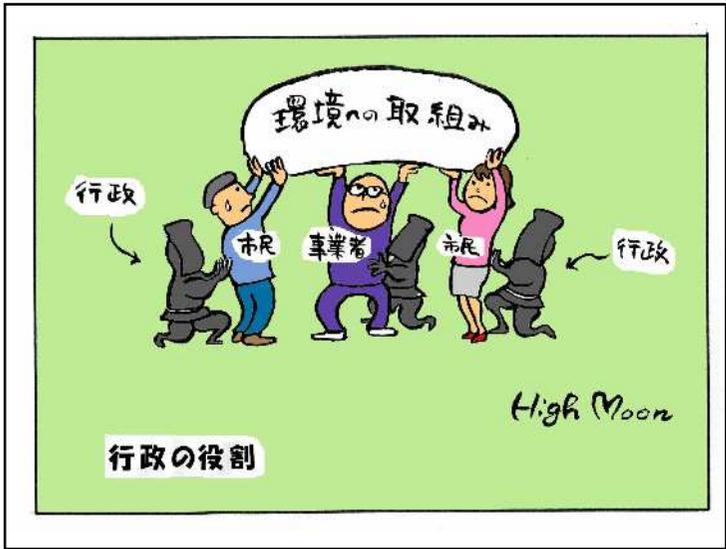


行政の取組み

背景: 地方分権、課題の多様化、財政危機
 循環型社会形成促進基本法

対応: NPO活用、PFI(民間活用)
 市民活動支援、市民参加、
 パートナーシップ型政策

条件: 情報公開、課題提起、構造改革



市民の取組み

背景: 市民運動の多様化(告発型、反対運動、参加型、提案型、ボランティア)

対応: 自主的取組、パートナーシップ

政策提案、グリーンコンシューマー運動

課題: ネットワーク、LCA的視点、科学的評価、無関心層へのアプローチ



市民と行政との取組み



やっとごみに関心が...

作者注: 大都市でのごみ処理原価は1袋当り約200円です。

事業者の取組み

背景: 企業倫理、EPR(生産者責任)

循環型社会形成促進基本法

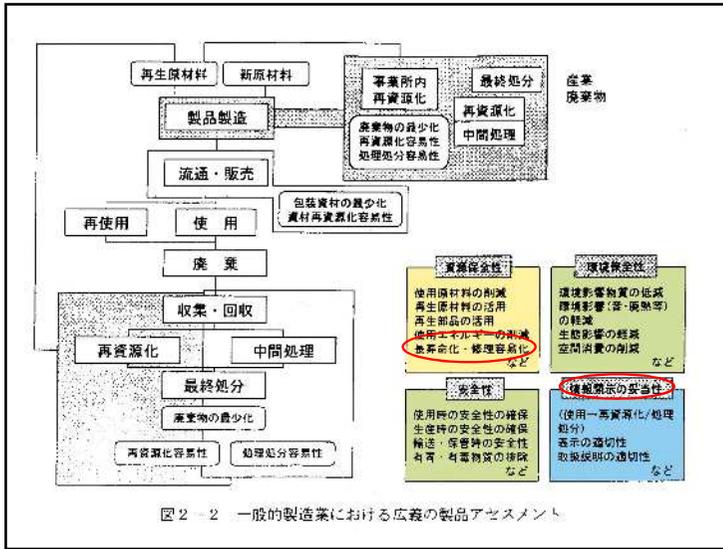
対応: ISO(国際標準化機構)14000シリーズ

製品アセスメント、エコビジネス

条件: 正しい情報提供、パートナーシップ、事業の見直し



廃棄物による環境負荷を低減するためには上流対策が不可欠です。



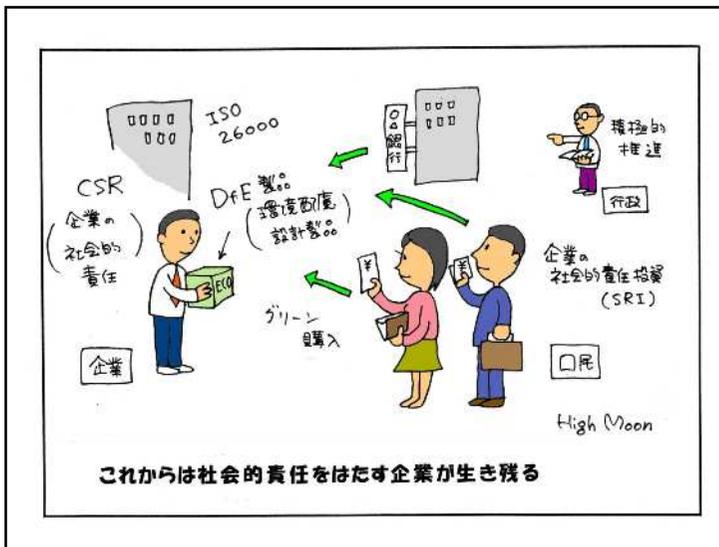
環境対策が新しいビジネスに!

1970 マスキー法 (NOx, CO 50%)
 アメリカ: 業界の反対で実施せず
 日本: 50%削減に力を入れた

結果的には低燃費車に成功した。

最近では

- エコカー: ハイブリット車, 電気自動車, 燃料電池車
- 省エネ家電: エアコン, LED照明
- エコハウス: ソーラーパネル, エネルギー設備, 断熱構造



環境に配慮した経済システム

- エコファンド: 環境対策に積極的な企業の株式に投資する投資信託, 銀行 証券
最近では省エネ, 再生可能エネルギー関連の会社への投資が盛ん。
- SRI(社会的責任投資)
英, 仏, 独などでは年金の投資先評価に環境・社会・倫理面の評価を法律で義務づけている。
- エコビジネス, グリーン経済への期待

リデュース (Reduce)

- **製品や提供の方法を変える**

容器の軽量化: 原材料使用量の削減

詰め替え商品: 容器の削減

長寿命製品: 丈夫なソックス、長寿命の蛍光灯
持参容器での販売: マイボトルでコーヒー販売、
焼酎の量り売り



- **消費の工夫**

食べ残しを減らす: 生ごみの削減

使い切る、長く使う: 大切に使う。修理をしながら使う。

使い捨て商品でなく長期使用製品を使う: 布きん、ラップでなく容器

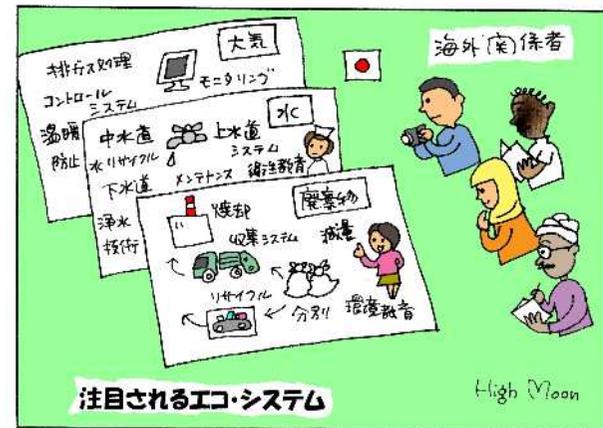
マイバック、マイボトル: レジ袋の削減、飲料容器の削減

カーシェアリング、レンタル: 共同利用で機器使用量の削減

- **生産・消費量の適正化**

買い物メモ: 必要なものだけ購入。衝動買いを避ける。

量り売り、ばら売り: 必要な量だけ購入する。



作者註: 日本の環境対策のソフト部分が海外から注目されています

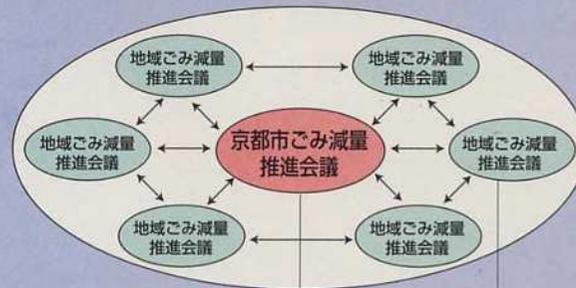


平成8年設立

京都市ごみ減量推進会議

High Moon

京都市ごみ減量推進機構



平成8年設立、会費制

400団体(事業者、市民)

地域ごみ減: 160団体

市民団体
事業者
事業者団体
ごみ問題の専門家
地域ごみ減量推進会議
京都市

地域の住民
地域の住民団体
ごみ減量推進員
地域の事業者
地域の事業者団体

京都市ごみ減量推進会議の活動

- 地域ごみ減 : 廃食油の回収(1200拠点)、古紙回収
- ごみ減量啓発イベント
- **市民公募型パートナーシップ事業**(50万X12件)
- 企業向けごみ減量実践講座
- 機密書類のリサイクル
- フリーマーケット
- **2R型エコタウン事業**

ごみの有料化財源の活用

事務局: 6名

(2R専門職員: 2名)

年間約4千万円の事業

京都市の環境行政の変化

1. 環境保全施設の整備(ハード)から
環境保全の普及事業(ソフト)へ
京エコロジーセンター、京アジェンダ21フォーラム、
ごみ減量推進会議
2. 本庁主導型から地区単位での活動へ
 - エコまちステーション(まち美化事務所から)
 - まちづくり推進課(各区役所)
 - エコ学区事業

京都市の新しい「ごみ条例」の動き

- 2R型のライフスタイルをめざす。
食べ残しを減らす: 目標値を設定
レジ袋の削減: 事業者に強い働きかけ
乾電池から充電電池へ
- 分別の徹底
雑紙の回収
事業者へ減量の取り組み報告を求める
- **事業者、市民が自主的に取り組むことを促す**



さて、この荒波を越えることができるでしょうか?

パートナーシップには情報の共有化が不可欠です。

廃棄物問題の現在・未来

循環型社会 → **持続可能社会**

社会全体での環境負荷の低減 リサイクルの再考 LCA

有害廃棄物対策: 予防原則、未然防止

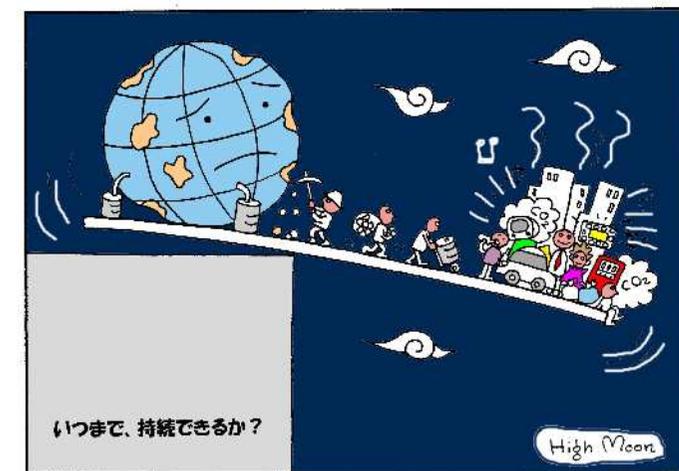
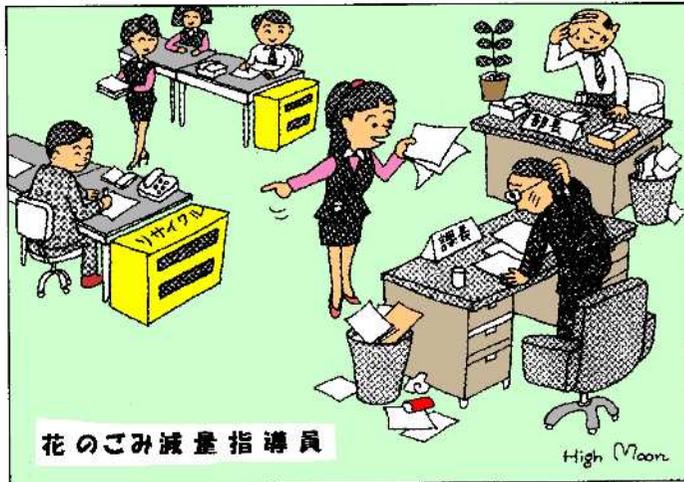
上流対策: 製品アセスメント

エンドオブパイプからの脱却: RDF、熔融処理の再考

EPR (拡大生産者責任)

・市民主体の方向性への転換、パートナーシップ

・**情報公開**



持続可能な社会とは？

絶対的條件：有限の資源・エネルギー、
環境負荷の急速な増加



農を中心とした地域循環共生社会

地産・地消、スローフード、エコマネー



ハイムーン氏の資料紹介

マンガゴミック(¥1000)

(株)クリエイティブ日報

環境カレンダー(¥900)

日本環境保護国際交流会

ホームページ：
ハイムーン工房ギャラリー

